



目次

巻頭言： 「医学図書館」への思い	松浦 達也	1
私の選んだこの一冊		
「素数の音楽」 マーカス・デュ・ソートイ著/富永星訳	小笠原 拓	3
「銃・病原菌・鉄」 ジャレド・ダイヤモンド著	安田 裕	4
大学図書館のライティング支援	尾崎 文代	5
参加報告「第6回大学図書館学生協働シンポジウム」	中谷 昇	6
学生参加報告	松岡 将	7
学生参加報告	中田あかね	7
本学教員寄贈図書		8
トピックス		10
附属図書館利用状況（最近5ヶ年）		12

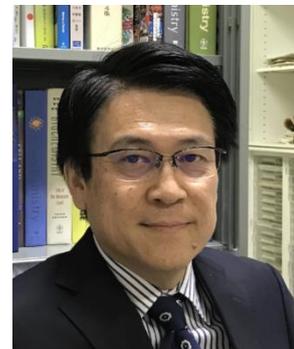
巻頭言

「医学図書館」への思い

松浦 達也

この度、平成28年4月1日付けで、鳥取大学医学図書館長を拝命致しました。私と附属図書館との関わりを少し述べさせてもらいます。私は准教授時代の平成17年4月から4年間鳥取大学附属図書館委員および医学部分館（現医学図書館）運営委員会委員を勤めました。また、教授に昇任してからも平成24年4月から2年間同委員を勤めました。准教授時代には、吉田春彦分館長、岸本拓治分館長のもと、電子ジャーナルの選

定、ヒポクラテスルームの開設など様々な経験をさせてもらいました。当時、全国的に医学部の図書館は「医学図書館」と呼ばれていましたので、鳥取大学も「医学図書館」という呼称に変えるように提案し、図書館の看板も「医



学図書館」に変わりました。残念ながら、呼び名は「医学図書館」であってもこれは推奨名であって、公文書上は医学部分館のままでした。その後教授になって医学部教授会で変更を提案しましたが、規則を変える事の煩わしさなどから受け入れられませんでした。しかしながら、これも昨年改正され、正式に「鳥取大学医学図書館」が誕生しました。昨年の医学部教授会の納涼会で中原統括司書から「正式に医学図書館になって良かったですね」と声をかけられました。中原さんは私が最初に名称変更を提案した時は中央図書館におられました。テレビ会議でのやり取り等が強く印象に残っていたみたいです。少し拘りすぎたような気もしますが、医学図書館長に就任した今、「医学図書館」を名実共に立派な図書館にしていかなければならないという決意を新たにしました。

さて、社会的にアナログからデジタルへの変更が加速している現在、図書館の役割は大きく変わりつつあります。私が学生の頃はまだインターネットでの検索などが進んでいませんでしたので、図書館に行って、書架にある文献を取り出してコピーを取るのが一般的でした。書架のカビ臭い“におい”は何やら知的な“におい”に思えたものです。現在は情報を入手するための手段はほとんどがインターネットを通じてのものです。冊子体もどんどん電子体に変更されています。今はどこにいてもネットにさえ繋がっていればデータベースで検索し、電子ジャーナルとして簡単に情報や文献を入手できますので図書館に行く事もほとんどなくなりました。そんなデジタル時代の図書館の役割は何でしょうか。電子ジャーナルやデータベースの充実はもちろんですが、これを維持するためには膨大な費用がかか

ります。今後の最大の課題となっています。医学図書館は平成 25 年の改修に伴い、自習室の机を質・数ともに充実させ、学習環境を大幅に改善しました。ただ図書館の空間を自習のためだけに利用するというのには問題があります。米国留学中に見た図書館には同窓の歴史的な写真や記念の品などが多数展示されているコーナーがありました。これを見る事により自然と愛校心がわいてくるようになります。これに関してはそれを写真に撮ってデジタルコンテンツとして閲覧できるようにすれば良いのではないかという意見もありますが、オルセー美術館の印象派の絵画をデジタルで見ると、本物を見るのとでは大きな違いがあるのと同じで、本物を見る事の方がより感動するものです。医学図書館でもこのような展示ができないものかと考えています。この他、グループで討論や学習ができる部屋も設置しています。学術書以外の書籍はまだ電子体での利用が進んでいませんので、学生さん達の意見を取り入れながら充実させる予定です。また、医学図書館でのセミナー開催なども含めて、医学図書館が医学部の知的空間としての役割を果たせるように努力したいと思っております。

(まつうら たつや : 医学図書館長)



マーカス・デュ・ソーティイ（著） 富永星（訳）

『素数の音楽』 富永星訳（新潮文庫）

小笠原 拓

国語教育を専門にしているが、理系の事柄について書いてあるものを読むのが好きだ。なかでも数学や物理のような、世の中に役に立つとか立たないとかそういったことに関わりがない、浮世離れした研究の話は特に面白い。とはいえ、研究の中身について詳しく理解できるという訳ではないので（できたら今の仕事はしていない）、その面白さを上手に読ませてくれる本があるととても有難い。本書もそのような著作の一つと言える。

1とその数字自身以外で割り切ることのできない数を素数と呼ぶということは、高校以来、ずっと数学が苦手であった私のような人間でも知っている。しかし、この素数がいくつあるのか、どのような規則で現れるのかということについては、未だに明らかにされておらず、数学における最大の謎の一つであるという。素数自体はありふれていて誰でも知っているのに、それがいつどのように表れるのかについて多くの優れた数学者を悩ませ続けている。私のような数学が苦手な人間にとっては、とても勇気が沸いてくる話である。素数についてはどんなに優れた数学者でも私と同じように「分からない」のだから。

特に面白いのは、素数という、ほとんど実学的には意味をもたないはずの研究が（素数の規則が分かろうが分かるまいが、私たちの生活にはほとんど何の影響もないはずだ）、例えば、突然、全く関係のない量子力

学という領域との並行性が指摘されたり、現在では、クレジットカードの暗号機能にも応用されているという。研究が進むにつれて数学以外のものにも影響を与えるようになっていくところだ。別に素数研究者は、何かに役に立つために研究をしていた訳ではない。本書の中でも引かれているポアンカレの言葉を借りるならば、彼らがそれを研究するのは有益だからではなく「喜びをもたらしてくれるから」研究するのである。それにも関わらず、研究が深まる中で、予想もしないような繋がりが見出されていく。

現代人は、目的に追われ、時間に追われて、「何かのために何かを達成する」ことばかりを要求されている。それが無駄だとは思わないが、本当に豊かなものは別のところにある気がする。そういったものが小説や音楽や絵画といったものだけでなく、数学のなかにもあるということを本書は教えてくれる一冊である。

（おがさわら たく）

地域学部准教授 附属図書館委員

○図書館所蔵

中央図書館開架 請求記号：412：Sos

ジャレド・ダイヤモンド（著）『銃・病原菌・鉄』（草思社文庫）

安田 裕

人類の歴史では、この数百年はヨーロッパが優位になっていることは自明である。大航海時代に端を発する植民地支配により、アフリカ・アジア・アメリカ・オーストラリアの先住民は被支配者の地位に甘んじてきた。なぜ、ヨーロッパ文明が支配的になったのかを、この本は説明している。そのキーワードがタイトルの「銃・病原菌・鉄」である。まず銃については、決定的な武器であり、日本国内でも、銃（鉄砲）が戦国時代の趨勢に多大なる影響を与えたことは周知のことである。本書では、大陸間の文明の相違の事例として、銃そして鉄の果たした決定的な効果を、16世紀にピサロ率いる168人のスペイン部隊が数万の軍勢を擁するインカ帝国を打ち負かしたことで示している。鉄の武具・武器を持つ少数のスペイン部隊が、青銅製の武具・武器を使うインカ帝国の大軍を打ち破ったのである。

銃や鉄などの発明・産業文明の伝播は、地形的に東西方向につながり、気候的にも類似的なユーラシア大陸が有利であるとし、さらに伝染病の拡がりもあり、旧大陸ユーラシア住民が病原菌に対する免疫を得ていたことも、他大陸に対する優位であったとしている。病原菌に対する免疫の違いが、新大陸で「細菌兵器」として作用したことを紹介している。

同じユーラシアの中で、歴史的にヨーロッパがアジアに対する支配者となった経緯については、コロンブスの大西洋横断と、明朝の鄭和のインド洋横断の比較により説明している。本書では、東西の大きな相違点として、ヨーロッパが分権であったのに

対して、中国が統一的中央集権であったこととしている。イタリア人のコロンブスはフランス・ポルトガルで認められなかった西回り航海をスペイン王の支援により実現できた。しかし明朝では、コロンブスに数十年先立つ鄭和の大航海の後、王朝内の決定により造船・航海を取りやめてしまったのである。明は統一王朝であるため、この決定は絶対的なものとなり、以降中国からはコロンブス、バスコ・ダ・ガマのような航海者は出ることはなく、中国がアフリカ・ヨーロッパを支配することにはならなかったとしている。これが、本書の「アジア的停滞」に対する説明となっている。

マクロスケールの歴史・文明解釈として、目から鱗が落ちるような切り口で、近代文明の展開を評価している著者であるが、日本人として違和感を持つのは、「日本は、日本語の話し言葉を表すには問題のある中国発祥の文字をいまだにやめようとしていない」としているくだりである。しかし、これは些事であり、歴史・文明論に新たな視点を与える本書は、一読の価値がある読み物である。また、著者はベッサラビアから米国へやってきた移民の2世であるということ、心の片隅に入れて読むと、さらなる微妙な味わいが出てくるのではないだろうか。

（やすだ ひろし : 乾燥地研究センター
准教授 附属図書館委員）

○図書館所蔵

中央図書館開架 請求記号：204 Jub (1)(2)

医学図書館

490.2 Dia 1

大学図書館のライティング支援

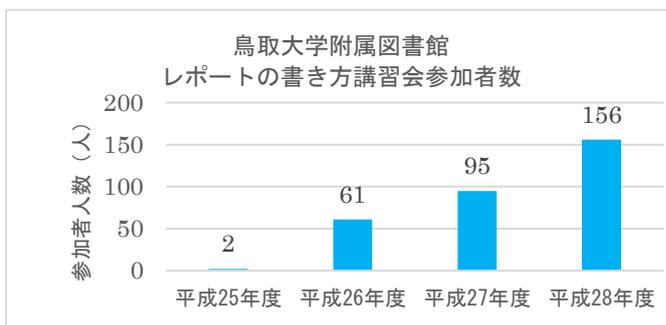
尾崎 文代

近年、学生の主体的学習に関わる支援体制が求められ、平成 25 年 8 月の『学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議のまとめ）』（文部科学省科学技術・学術審議会学術情報委員会）ⁱでは、学修環境充実に関わる学術情報基盤整備として、コンテンツ、学習空間とともに人的支援の重要性が謳われている。

また、国内の大学では、レポート・論文の書き方を学ぶアカデミックライティング授業の必修化や、ライティングサポートを行うセンターを設立し相談を受け付ける、等の取組が行われておりⁱⁱ、大学における学術情報基盤である図書館でも、ピアチュータリングによる学習支援、レポートの作成支援など、ライティング支援を行う事例が増加している。ⁱⁱⁱ

本学中央図書館でも、平成 25 年度から「レポートの書き方講習会」を開始し、図書館職員が、レポート課題のタイプ別に何を書けばよいか、どう書けばよいか（構成・書式・体裁）などの基本的なレクチャーを行っている。参加者は、学部 1 年次生から院生まで幅広く、また、参加人数も年々増加の一途をたどっている。講習会受講後のアンケートからは、「書き方が分からず悩んでいたのがとても助かった」「何についてどのように書けばよいのかが分かった」「講習会で一から体系的に聞けてよかった」といった声が聞かれ、アカデミックライティング支援に対する需要の高さがうかがえる。今後は、学内教員との連携のもと、講習会の効果を調査（参加者の到達度を分析等）してカリキュラムに反映するなど、より進んだ講習会の開催を検討している。また、この過程を図書館職員のスキルアップにつなげることも目指している。

アカデミックライティングは、習得した知識を整理し思考し表現するという最も基本的で重要な学習活動であり、また、研究成果を公表するためにも必須の活動である。ライティング支援は、従来、大学図書館が担ってきた「学術情報の利用と発信」という役割に「学術情報の生産」に関わるというステージを追加し、大学図書館機能を拡大させるものであると考え、今後とも進めていきたいと思っている。



講習会の様子

ⁱ 科学技術・学術審議会学術分科会学術情報委員会. 「学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）」. 文部科学省. 平成 25 年 8 月. (オンライン)

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/08/1338778.htm (参照 2016-11-10)

ⁱⁱ 必修授業として東京大学の ALESS/ALESA、ライティングセンターとして早稲田大学、関西大学、津田塾大学、広島大学などが挙げられる。

ⁱⁱⁱ 徳島大学附属図書館の Study Support Space、神戸大学附属図書館、筑波大学附属図書館のライティング支援セミナーなどが実施されている。

(おざき ふみよ：図書館情報課長)

参加報告

第6回大学図書館学生協働交流シンポジウム

『考えよう！大学図書館学生協働の未来』

中谷 昇

平成28年9月15日（木）から16日（金）、香川大学附属図書館にて開催された、「第6回大学図書館学生協働交流シンポジウム『考えよう！大学図書館学生協働の未来』」へ参加しました。



近年、大学において、学生と教職員が協力して様々な活動を実施する「学生協働」という取り組みが注目されており、本学を始め大学図書館でも様々な形の学生協働が実施されています。今回のシンポジウムでは、全国の大学から、学生協働に関わる学生・教職員が集まり、それぞれの取り組みを紹介し合ったり、一緒にワークショップに挑戦したりしました。

まずは、北摂演出研究所代表・元宝塚総支配人の森下信雄氏より、「エンターテインメントの現場から学ぶ学生協働経営論」と題した講演を拝聴しました。宝塚歌劇団のビジネスモデルから、大学や学生協働に活用できる考え方を提示する、という内容でしたが、特に強調されたのは「徹底的な主催興業」と「コミュニティの形成・演出」という点です。宝塚歌劇団の講演は、自ら全てを企画・実施し、全ての責を負う主催興業だからこそ、講演の度に最大限の利益を享受でき、また徹底したルール付けによる独特なファンコミュニティは、そこに所属すること自体が心地良いと思わせるものであるとのことでした。大学図書館における学生協働の未来として、そのような自分でリスクを負うことの重要性や、その場を好きになるようなコミュニティの形成について、考えを深めると良いのではないかと提案されました。



続いてポスターセッションがあり、各大学の学生協働事業について情報交換がなされました。他大学の事例としては、大学院生によるリサーチアシスタントや、複数の大学間での共同・交流事業などが目立ちました。また本学からも、これまでの活動をまとめたポスターを出展し、同行した学生がその説明にあたりました。聞き手も話し手も初対面の学生だけで、時には真剣に、時には笑い合いながら語り合う姿は、とても印象に残っています。

二日目には、出席した学生・職員が、所属など関係なくグループを作り、協力して即興の企画立案を行う、というワークショップに参加しました。様々な大学の学生たちによる豊かな発想と、それを活かしつつ現実的な実現性も考慮した企画内容は、魅力的なものばかりでした。発表された企画の中には、読書会・本の交換会や館内でのすごろくなど、本学でも実施できそうな企画もあり、今後の事業検討の参考にもなりました。



最後に、教職員だけの意見交換会がありましたが、その中で「学生はもちろんのこと、

職員の積極的な参画もあってこそ『協働』と言える」という趣旨の意見がありました。当たり前のことではありますが、今後も長く活動を続けていくためにも、忘れてはならないことだと、改めて身の引き締まる思いがしました。

(なかに のぼる：図書館情報課司書)

学生参加報告

松岡 将

シンポジウムの最初にあった森下信雄講師による、宝塚歌劇団を例としたエンターテインメントの仕組みに関する講義はとても興味深く、本シンポジウムが終わってから twitter を始めようと思うほどに私には影響力があった。

他大学にも図書館ワーキンググループと似たようなものがあり、きっと似たような活動をしているのだろうと思っていた。しかし実際には学習支援のみを行っているところや、幼児への読み聞かせを主として行っているところ等、場所によって活動内容は様々であった。大学で図書の活動をしているからといって基本形が有るわけではなく、場所ごとのニーズに合わせて活動形態も変わってくるのだなと思われた。

大学によっては、図書館のマスコットキャラクターを作っているところや、本を貸し出す際に偉人の名言が書かれた葉を配布しているところ等、様々な工夫を凝らしている大学もあった。

ブックハンティングやビブリオバトルで人が集まらないのは、どうやら全国共通の問題のようである。ポスターセッションや夜の交流会にて 2、3 人からその話を聞いた。お互いに良い打開策を見つけられると良いなと思った。

もしも参加できるならばの話になるが、次回のシンポジウムにて魅力的かつ双方向的に利益のある報告ができるよう、今後の図書館ワーキンググループの活動を考えていきたいと思っている。初日の夜の交流会にて、津々浦々の学生・図書館職員と関わったので、是非とも次回のシンポジウムにも顔を出したいものである。

(まつおか しょう：地域学部地域教育学科 2年 学生図書館 WG)

学生参加報告

中田 あかね

私は今回初めて大学図書館学生協働交流シンポジウムに参加し、香川県にも初めて行きました。そんな初めてだらけの 2 日間でしたが、他大学の学生さんや職員の方々との交流はとても楽しく有意義なものでした。100 人以上の大学図書館に関係する方々と交流する機会は滅多にないものであり、全ての方と交流することは出来ませんでした。それでも多くの方と言葉を交わすことが出来たと思います。

また、このシンポジウムでは講演や交流会などが行われましたが、特にポスターセッションとワークショップが印象に残りました。ポスターセッションでは、大学ごとでの図書館利用を増やすために行っている活動や、ビブリオバトルについてなど活動が、写真や説明により分かり易く紹介されていて、今後の学生図書館ワーキンググループでも参考にしたいと思う活動も多くありました。さらに、独自のキャラクターやそのグッズ、ユニフォームなど

をつくっている学生協働もあり、大学ごとの特色も感じることができました。

そしてワークショップでは、ランダムに選ばれたメンバーで、グループごとに本や図書館に関するプレゼン発表を行い、様々な趣旨の興味深いプレゼンを聞くことができ、イベント等のアイデアへの考え方の幅が広がりました。

学生図書館ワーキンググループの活動もまだあまり知られていないところがありますが、このシンポジウムに参加したことで、一般の学生の方も参加できるビブリオバトルやブックハンティングなどの活動を知ってもらえるようにもっと創意工夫していきたいなと思いました。

(なかた あかね：農学部生物資源環境学科 2年 学生図書館 WG)

本学教員著作寄贈図書（最近3年受入分）

本学教員より次の図書を寄贈していただきました。誠にありがとうございました。

本学教員著作寄贈図書コーナーに配架し、利用に供しています。

(寄贈年度順)

書名/著者等	寄贈者名 (敬称略)	請求記号
オープンソース・ソフトウェアで学ぶ情報リテラシ:LibreOffice (Writer,Calc,Impress,Math)Mozilla Firefox Mozilla Thunderbird / 石田雅, 木本雅也共著	石田雅, 木本雅也	007.6:Opu
菌類きのこ遺伝資源：発掘と活用 / GCOE「持続性社会構築に向けた菌類きのこ資源活用」編集委員会編	前川二太郎	474.7:Kin
初歩からの微分積分：豊富な問題詳しい解答付 / 後藤和雄, 小島政利著	後藤和雄	413.3:Sho
「天然水の森」を科学する / サントリービジネスエキスパート水科学研究所, サントリーホールディングス編集	日置佳之	653.17:Ten
現場に根ざした介護と福祉：アクション・リサーチからの発信 / 目黒輝美 [ほか] 監修	小林勝年	369.17:Gen
自治体における医療・保健・福祉政策の展開：事例考察を通じて / 坂山高朗[著]	坂山高朗	369:Jic
新しい健康科学の探究 / 武田眞太郎編著	松本健治	498.04:Ata
歴史政治学の観点から見たマルクス・パーマストンについて / 坂山高朗[著]	坂山高朗	312.8:Rek
学校保健・健康教育用語辞典 / 大澤清二編	松本健治	374.9:Gak
学校保健用語辞典：生涯健康教育の知識の宝庫 / 学校保健用語辞典編集委員会編	松本健治	374.9:Gak
発明楽	植木賢	490.7:Hat
パーマストンに関する一考察 / 坂山高朗[著]	坂山高朗	312.8:Pam
政治学のABC / 坂山高朗[著]	坂山高朗	311:Sei
山陰地域の斜面災害 / 日本地すべり学会「山陰地域の斜面災害」編集委員会編	日本地すべり学会	455.89:San
大ヒットの方程式：ソーシャルメディアのクチコミ効果を数式化する / 吉田就彦, 石井晃, 新垣久史 [著]	石井晃; 新垣久史	675.2:Dai

書名/著者等	寄贈者名 (敬称略)	請求記号
Restoration and development of the degraded Loess Plateau, China / Atsushi Tsunekawa ... [et al.], editors	乾燥地研究センター	454.64:Res
Discrete control systems / Yoshifumi Okuyama	奥山佳史	548.31:Dis
創造農村：過疎をクリエイティブに生きる戦略 / 佐々木雅幸, 川井田祥子, 萩原雅也編著	野田邦弘	318.6:Soz
文化政策の展開：アーツ・マネジメントと創造都市 / 野田邦弘著	野田邦弘	709:Bun
乾燥地を救う知恵と技術：砂漠化・土地劣化・干ばつ問題への対処法 / 恒川篤史編集代表	乾燥地研究センター	454.64:Kan
オープンソース・ソフトウェアで学ぶ情報リテラシ：LibreOffice(Writer,Calc,Impress,Math) Mozilla Firefox Mozilla Thunderbird 情報倫理とモラル/石田雅, 木本雅也共著	石田雅, 木本雅也	007.6:Opu
つながる、つなげる：山郷からの贈り物：鳥取県智頭町山郷の聞き書き	家中茂	916:Tsu
『宋詩話全編』口語語彙索引 / 塩見邦彦編	塩見邦彦	921.5:Sos
加知弥神社飯田家資料稿 / 田中仁, 岸本覚編集 1-5	田中仁, 岸本覚	217.2:Kac:(01)-(05)
小鹿川と小鹿溪のひみつ / 小玉芳敬著；鳥取県三朝町教育委員会編集	三朝町	291.72:Osh
無駄安留記隊報告書：鳥取大学地域学部地域文化学科地域文化調査 2006年版～2013年版/ 田中仁, 茨木透, 岸本覚編	岸本覚	291.72:Mud:(06)-(13)
Software reliability modeling：fundamentals and applications / Shigeru Yamada	山田茂	007.63:Sof
品質指向ソフトウェアマネジメント：高品質ソフトウェア開発のためのプロジェクトマネジメント / 山田茂, 福島利彦共著	山田茂	007.63:Hin
ソフトウェア工学の基礎と応用：高品質ソフトウェア開発を目指して / 山田茂, 田村慶信共著	山田茂	007.63:Sof
プロジェクトマネジメント / 江崎和博 [ほか] 著	山田茂	336:Mir:(6)
よくわかる発達障害：LD・ADHD・高機能自閉症・アスペルガー症候群 / 小野次朗, 上野一彦, 藤田継道編	小枝達也	378:Yok
なぜ算数や理科を勉強するの？	矢部敏昭	375.41:Naz
オープンソース・ソフトウェアで学ぶ情報リテラシ：LibreOffice(Writer,Calc,Impress,Math)Mozilla Firefox Mozilla Thunderbird 情報倫理とモラル Linux OS 入門(CD/DVD 起動 OS の利用) / 石田雅, 木本雅也共著	石田雅, 木本雅也	007.6:Opu
松江市史 / 松江市史編集委員会編	松江市	217.3:Mat:(7)
加知弥神社飯田家資料稿 / 田中仁, 岸本覚編集	岸本覚	217.2:Kac:(06)
加知弥神社飯田家資料稿 / 田中仁, 岸本覚編集	岸本覚	217.2:Kac:(07)
間部詮勝と幕末維新の軌跡：間部詮勝プロジェクト特別講演会記録集 / 福井県鯖江市教育委員会文化課編	岸本覚	210.58:Man

書名/著者等	寄贈者名 (敬称略)	請求記号
Монгол орны малын бэлчээрийн гуурст ургамал / Жамсрангийн Ундардаа Окуро Таш ияа Норовын Манибазар Яманака Нориказу = Rangeland plants of Mongolia / Undarmaa Jamsran, Toshiya Okuro, Manibazar Norov, Norikazu Yamanaka	山中典和	472.227:Ran:(1)(2)
伊勢大神楽:国指定重要無形民俗文化財 : 成立と地方伝播 / 野津龍著	豊田久	386.81:Ise
周代史の研究 : 東アジア世界における多様性の統合 / 豊田久著	豊田久	222.03:Shu
文化現象としての近代 : 吉村伸夫遺稿集 / [吉村伸夫著]; 佐々木和貴編	(吉村泰子)	930.25:Bun
錦織勤先生ご退職記念文集	高田健一	210:Nis
特別支援教育と国語教育をつなぐ : 小・中・高を見とおして/難波博孝, 原田大介編	浜本純逸	378:Tok

トピックス

オープンキャンパス 2016 で図書館ツアー・クイズラリーの開催 (中央図書館)

7月23日、24日にオープンキャンパスが開催され、中央図書館では図書館ツアーとクイズラリーを実施しました。図書館ツアーには約430名の参加があり、図書館職員による館内見学を行いました。また、学生図書館WG学生と一緒に、図書館内をめぐりながらクイズに答えるクイズラリーを開催し、高校生や保護者等363名の参加があり、参加者も大いに盛り上がりました。



問題を解く高校生

平成28年度インターンシップ学生を受入 (中央図書館)

中央図書館では、平成28年8月22日から8月26日までの5日間、本学地域学部よりインターンシップ実習生を受け入れました。

実習生は、カウンター業務、図書、雑誌等の目録業務、文献複写業務などを実習しました。また、鳥取県内の図書館連携について学ぶため、鳥取県立図書館へ出向き、県立図書館職員から施設案内や図書館サービスの説明を受けました。最終日には「鳥大図書館で情報収集しよう」パンフレットを作成し、ホームページ掲載や館内配布による学生への広報活動も行いました。



説明を受ける実習生

図書、雑誌の管理だけでなく、様々な図書館業務を実習の中で理解し、最後まで積極的な姿勢で取り組んでいました。

ビブリオバトル in 鳥取大学の開催（中央図書館）



ビブリオバトルの様子

中央図書館では、風紋祭期間中の10月9日に「ビブリオバトル in 鳥取大学」を附属図書館1階ホールで開催しました。今回で7回目の開催となり、学生図書館WG学生と共に活動する恒例の事業となっています。

地域住民の方を含む40名の方の前で、学生や飛び入り参加者による6名のバトルが展開されました。チャンプ本には地域学部2年福井水菜さんが紹介した、小野不由美著「月の影 影の海」が選ばれました。今年も山陰地区決戦大会（松江市カラコロ工房開催）へ出場しましたが、惜しくも全国大会への切符を逃しました。

地域住民の方を含む40名の方の前で、学生や飛び入り参加者による6名のバトルが展開されました。

「図書館セミナー」の開催（医学図書館）

医学図書館では、平成21年からセミナーを通して、学生さんに人体への理解を深めていただき、幅広い教養と人間力を身に付けていただく契機になるよう、中根裕信先生（解剖学）を講師に、「図書館セミナー」を毎年開催しています。

今年度は7月19日に『「知りたい」-自分の身体を使っても、自分の身体を知ろうとした-』と題して開催し、「自分の体で実験したい」「ジェネティック・ラウンズ」などの図書の紹介や人体模型を使ってお話いただき、学生たちも熱心に聞き入っていました。



セミナーの様子

「国立大学図書館協会ビジョン2020」について

国立大学図書館協会では、本年6月「国立大学図書館機能の強化と革新に向けて～国立大学図書館協会ビジョン2020」を採択しました。

これは、「大学図書館は、今日の社会における知識基盤として、記録媒体の如何を問わず、知識、情報、データへの障壁なきアクセスを可能にし、それらを活用し、新たな知識、情報、データの生産を促す環境を提供することによって、大学における教育研究の進展とともに社会における知の共有や創出の実現に貢献する」という基本理念を実現するために、1. 知の共有 2. 知の創出 3. 新しい人材 という3つの重点領域を設定し、具体的な活動を立案し実行するものです。

本学附属図書館を含む92の会員館は、協会の活動と連動し、それぞれの大学のミッションや中期目標等に沿うように戦略的目標を選択してその達成をはかり、この基本理念の実現をめざしていきます。

※「国立大学図書館機能の強化と革新に向けて～国立大学図書館協会ビジョン2020」

http://www.janul.jp/j/organization/regulations/janul-2020vision_pamphlet_non-spread.pdf

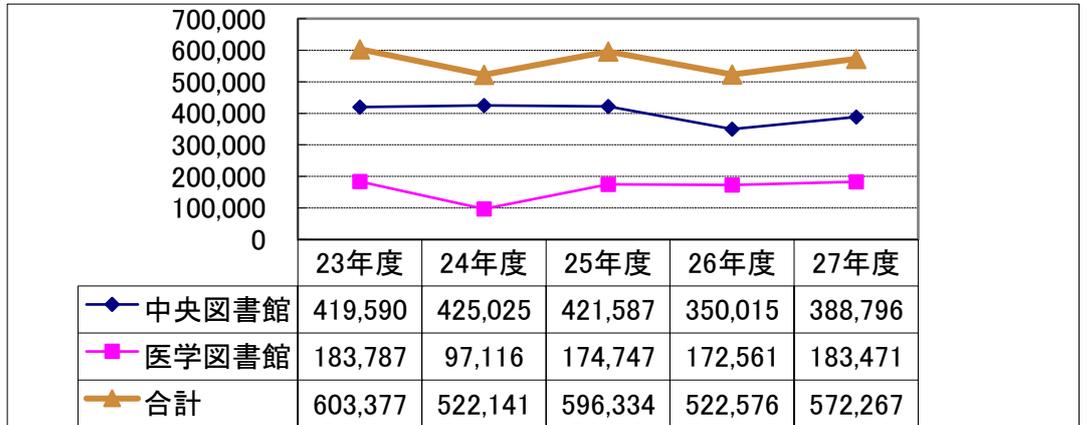
附属図書館利用状況（最近5カ年）

年度別開館日

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
中央図書館	343	333	340	333	343
医学図書館	335	* 295	327	329	333

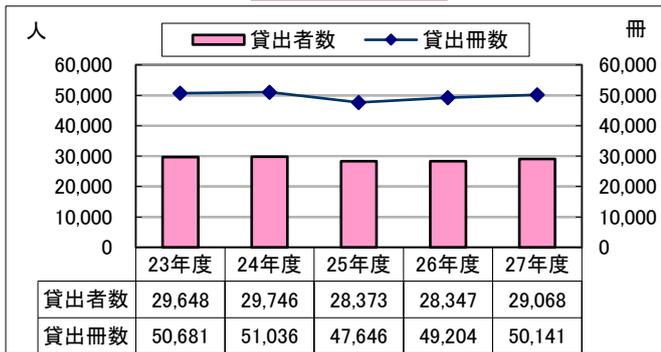
*耐震改修の為、仮設図書館で運用

年度別入館者

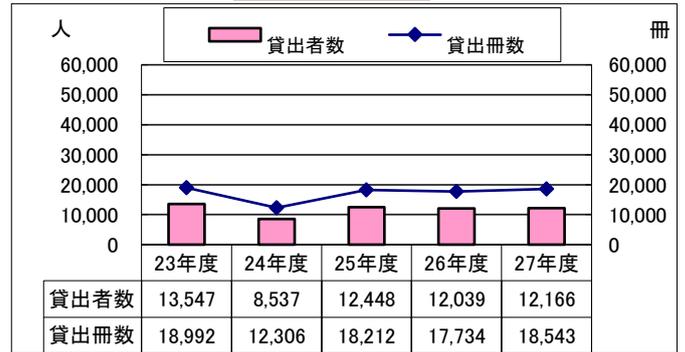


年度別貸出者数・冊数

中央図書館

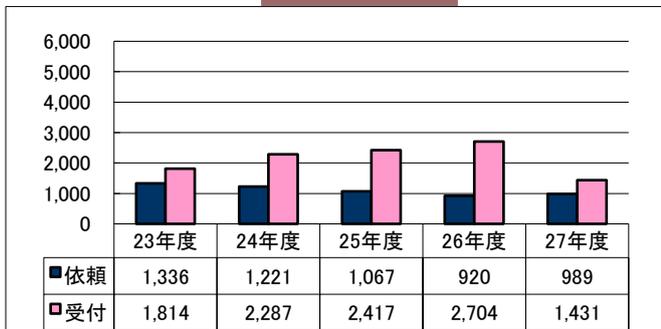


医学図書館

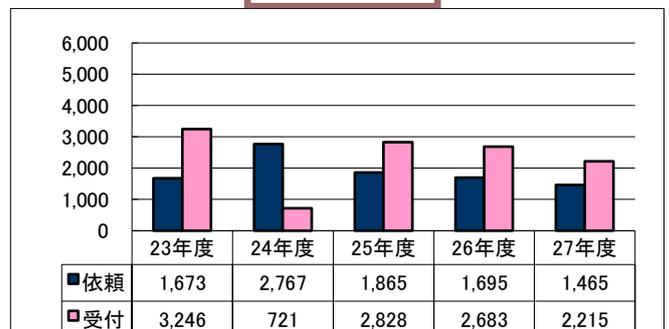


文献複写学外依頼・受付件数

中央図書館



医学図書館



鳥取大学附属図書館報 第128号 (2016年11月)

〔編集・発行〕 鳥取大学附属図書館

〒680-8554 鳥取市湖山町南4丁目101番地 [TEL] (0857)31-6728 [FAX] (0857)28-6346

[E-Mail] tosyokan-p@adm.tottori-u.ac.jp [ホームページ] <http://www.lib.tottori-u.ac.jp/>

Copyright (C) 鳥取大学附属図書館 【本館報について一切の無断転載を禁止します】

